

## 1. 地質と暮らし

私たちは、平野か丘陵地などは別にしても、間違いなく大地の上にいます。そして、この大地は地球の表面の一番上の薄い部分でもあります。日常的には、自分の足がどこにあるのかなどほとんど思ってもいません。ただ、海ではなく陸地にあることだけは確かですが、当たり前のことのようで、いつも変わりない風景の中に暮らしているように思っています。しかし、地震で揺れたり、豪雨で周りの様子が変化すると、何も心配ないようなところが変動するということを実感します。

そして、時間が経過するとともに災害体験はやがて風化して、ものあたりまえの世界へ戻ってしまいます。いつ起きるかわからないようなことにかまっているほど暇ではないということです。

人が暮らすには足もとが安定していないと不安で生活できません。人間の暮らしの最初の狩猟時代にしても水田が耕作されるような時代でも、まずは水害や獣害にあわないところを居住地にしたわけですが、土地を改変することなく自然を上手に活用していたと思われます。せいぜい排水ぐらいには気を配ったにしても、住まいとしてはそれこそ雨風をしのげるもので十分だったと思われます。

しかし、人口も増加し産業も発展していくと、さまざまな形態の生活が始まり、生活圏も拡大するというような状況になりました。日本列島はほとんどが山地ですので、どうしても限られたところを利用することになります。平野部は平坦で広いというメリットはありますが、ほとんどが若い時代の堆積物のために、軟弱なところが多く、土地利用するにはさまざまに補強をする必要があります。例えば、道路にしても、やわらかいところは地盤改良をしないと通行できません、豪雨時の浸水や陥没というようなことにも気をつけないといけません。

また、大きな建物や橋梁といったものになるとしっかりと支持するために杭を打つたりもします。地盤は支えるためでもあり、農業などでははぐくむものでもあり、その役割は多様で、人間はたくみに活用してきましたが、うっかりその特性を無視してしまうと、地震とか豪雨といった強力な外力によって、思いがけない地盤被害を発生させるということが起きてしまいます。平坦だとか利用するに適当なところだとしても、その地質や周辺の環境を十分に吟味しないといけないことを災害が教えてくれます。

実際に、川の流路跡、湖沼跡の埋立地や火山灰の堆積した土地では、地震による地盤災害が大きいということが多数確認されています。普段は見えない弱点が地震など

で見せられるということがあるということです。まさに、「災害は同じ場所で繰り返し起きる」し、「災害は必ず新しい場所で起きる」、そして「災害は時代とともに進化して規模が大きくなる」ということです。